



---

## Sing for Smile Program / SFSP

### Activities of Sing for Smile Program

---



#### SFSP / コミュニケーションの必要性

2011年3月11日、東日本沿岸部を中心にマグニチュード9.0の地震が襲い、死者及び届出のあった行方不明者数が20,000人にも及ぶ、第二次世界大戦後最悪の自然災害が発生しました。

現在、被災地では仮設住宅に入居することで、それぞれの生活に落ち着きを取り戻しつつあります。しかし、家族を救えなかったことに対して自分を責める気持ちや、住居・家財道具を失った悲しみ、孤独感、将来への不安等による心の不安定な状況を抱えた多くの方々もいらっしゃいます。また、狭い仮設住宅での不自由な生活は、隣人へ音が聞こえる等、神経を使うことが多く、様々なストレスを感じていらっしゃるようです。

新しい生活の場となる仮設住宅は、それぞれが離れた各地から集まって来られた方達です。その為、入居者同士の新しいコミュニケーションをとるのは非常に難しく、更にコミュニケーションをとる為の場所も存在しないことから、強い孤独感を深めていらっしゃる方も多いようです。

国連の友Asia-Pacificでは地震発生後、支援物資の調達に始まり、避難所でのシャワーコンテナ設置、アスリートと共同でのスポーツ教室の開催、アーティスト達との現地慰問やチャリティー音楽祭の開催、がれき処理等のボランティア派遣、被災地の子供達をディズニーランドに招待する等、様々な活動を行って参りました。

被災者の方々から「孫や子供達とカラオケで楽しい時間を過ごしたい」「思いっきり歌ってストレスを発散したい」「仮設の人達ともっとコミュニケーションが取りたい」等、多数の要望を受けました。

活動から新しい被災者支援プログラムの必要性を実感し、(株)第一興商様の全面協力によるカラオケカーを帯同する巡回診療医療 "Friends of the United Nations Sing for Smile Program" を行うこととなりました。



## SFSP / 医療活動概要

"Friends of the United Nations Sing for Smile Program" は「国連の友 医療団」を中心とし、巡回診療医療とカラオケを活用した「被災者の心のケアを支援する活動」です。

SFSP プログラム活動概要	
1. 活動期間	2012年1月21日(土)～(※被災地からの要望により随時)
2. 活動概要	巡回診療医療とカラオケカーを活用した被災者の心のケア支援
3. 主な診療科目	総合診療・心療内科
4. 具体的対応	①健康相談 ②継続的治療を要する患者への対応 ③地元の病院、診療所の紹介(紹介状の発行) ④カラオケカーを活用し、住民参加による健康推進指導 ⑤セラピードッグを活用した心のケア支援
5. 活動主体	国連の友AP / 株第一興商 / マザーズハート財団



## SFSP / 医学的効用

### ■カラオケの医学的効用

人間の五感の中で心身に影響を与えるもの、それは『聴覚』です。音による情報は鼓膜を通じて聴覚中枢を刺激します。聴覚中枢のまわりには、脳下垂体、海馬、扁桃体等、人間の生命や感情を司る機能が集中しており、心や体の健康をコントロールしているといっても過言ではありません。

カラオケを歌うということは、耳から入った情報を過去の記憶を遡りながら、音程やリズム、感情や声量、更には振付や高揚といった様々な反応を伴います。これは脳下垂体や海馬、扁桃体のほかにも、運動脳の小脳や過去の記憶を司る大脳、延髄に至るまで、脳全体をバランスよく活性化させます。また記憶が少なく歌いこなれていない曲等は、更に脳全体を活発に働かせます。その他、深呼吸、特に腹式呼吸になることで、細胞の活性、酸素量の増加、血流量の増加、老廃物の排出等、様々な医学的効用があります。

### ■住民参加による医学的作用

参加するということは、人間の本能です。原始記憶の中に、団体に参加する、いわゆる動物学的に『集団形成』することが安全、安心、安定に直結し悩みや苦しみも共有出来るという記憶があり、その記憶は、動物の祖先にまで遡り、脳の中の海馬が持っています。1人より2人、2人より多数、家族、仲間、常に共同体の中に属しようとするのは、それが人間にとって最も基本であることを物語っています。それが、イベントや事業などの協働作業で共通の目的や目標を達成するとなったら、脳全体のDNAがリフレッシュし、活性化することを本能的に知っているのです。また、単に参加するよりも率先して行動した方が、効果が高いことが立証されています。多くの行事の場合、誘われた人の30%は渋々とついてくるといわれていますが、帰りに不満をいう人はほとんどなく、声の調子や肌の色つやが良くなることが多く、これは集団に属したことによる安心・満足感によりホルモン・自律神経の状態が改善したと考えられます。

生きていく上で最大の原動力である「参加する」という小さなエネルギーが莫大な感動と悩みや辛さを癒してくれると感じているからなのです。

## ■セラピードッグの効能

セラピードッグとは、触れ合いや交流を通じて病気やケガ、または精神的な痛みを受けた人の不安を減らし、気力を高め心と体を癒す働きをする高度な訓練を受けた犬です。

もともとは第二次世界大戦時にアメリカ軍の戦地で捨てられていたヨークシャー・テリアを軍人が拾い、それをストレスを抱えた他の軍人たちの癒し、余興として使いました。それを見たメーヨー・クリニックの医師が病院などに一緒に連れて怪我した軍人などの治療補助としたのがきっかけです。

その後イギリスの看護師が、身体障害のある子供達や高齢者のセラピーとして有効だとして1982年、非営利団体 TLZ:Tender Loving Zooを立ち上げ、欧米では広く知られることとなり、被災地でのうつ病やPTSDからの改善例が報告されています。



セラピードッグによる効能例	
1. 主な効用	<p>①セラピードッグは人間よりも体温が高い為、抱きしめると安心感があります。直接、触れ合うことで、ストレスの緩和・精神的安定をもたらす効果があります。</p> <p>②セラピードッグは人間の気持ちや言葉を理解します。相手の立場をわきまえて行動出来る為、接することで人間関係などのストレスから解放され、心を癒す効果があります。</p>
2. 治療事例	<p>①認知症の患者さんが、セラピードッグとの触れ合いの中で愛情や慈しみ等の感情を取り戻すきっかけとなり、認知症の進行を遅らせることも出来るといった事例が多くあります。</p> <p>②セラピードッグに触れることで、高血圧の人の血圧低下や、麻痺した手が少しづつ動くようになった等の経験談があります。</p> <p>欧米では小児医療にも利用されています。</p>



## SFSP / スタートした巡回診療医療

2012年1月21日（土）岩手県大船渡市立根町宮田仮設住宅（大船渡市立第一中学校）より“被災者の心のケア”を目的としたカラオケカー帯同の巡回診療医療“Friends of the United Nations Sing for Smile Program”がスタートしました。

当日は、仮設住宅隣接の集会場前でカラオケカーの譲渡式が行われ、大船渡市金野周明副市長、宮田仮設住宅 平山清人自治会長に引き継がれました。セラピードッグのエルシド君、ロレンス君も駆けつけ、仮設住宅の皆様のを和ませてくれました。



写真左より【敬称略】

- (株)北東北第一興商 代表取締役社長 白土 一男
- (株)第一興商 代表取締役社長 林三郎
- 大船渡市 副市長 金野周明
- 医師 / マザーズハート財団 松田仁
- 国連の友Asia-Pacific 理事 金森孝裕
- 宮田仮設住宅 自治会長 平山清人

“Friends of the United Nations Sing for Smile Program”カラオケカー譲渡式

### ■宮田仮設住宅 平山清人 自治会長

この宮田仮設の特徴は、遠く離れた所から集まって来られた人が多い点です。120世帯中、およそ40世帯が高齢者、独居の方達であり、当然ながら入居者同士のコミュニケーションをとるのは非常に難しく、また仮設内では隣同士の壁が防音で無い為に、大きな声をせなないのが現状です。



宮田仮設住宅  
平山清人 自治会長

昨年7月以降に入居してから、ようやく近隣とのコミュニケーションが拡がりつつある中で、カラオケカーという1つの場所を利用して人々が集まり、普段室内では出せない大きな声を出して歌を歌えるというのは、不安を拭い去り、自分自身が元気になる…素晴らしい行動ではないかと思っております。

今回、国連の友様を通じて第一興商様とのカラオケカーを利用した診療医療プログラムの常設の要請をさせて頂きまして本日に至りました。どうしても支援というのは、仮設住宅の住民だけが注目されがちですが、今回は在宅避難の方、みなし避難生活の方も含め、仮設住宅の方のみならず周辺の住民の方々にも活用して頂き、皆で元気になっていこう！という取り組みをこれから進めていきたいと考えております。

やはり個人レベルでは、どこに住めるのか？どこに家を建てられるのか？仮設住宅にいつまで入れるのか？そういった不安が大きくなっていくことに対して「心のケア」がこれから益々必要とされてくると、私も強く感じております。

この場所を選んで頂いたことに厚く御礼を申し上げます。大変有難うございます。



NHKによる報道・取材の様子



カラオケカー設置に喜ぶ子供達



大船渡 / 陸前高田市より被災地支援プログラムに対して強い要望を受けました。



## 巡回記録 ～ 各地の様子

### ● 第一回 宮田仮設住宅（120戸）

住所：岩手県大船渡市立根町字宮田86

期間：2012年1月21日（土）～ 2月3日（金）



#### ● 現地の様子

この仮設住宅は、遠く離れた所から集まって来られた方が多く、120世帯中、おおよそ40世帯が高齢者、独居の方達となっています。

その為、入居者同士のコミュニケーションをとるのが非常に難しくなっています。仮設内では隣同士の壁が防音で無い為に、大きな声を出すことが難しいのが現状です。

#### ● 利用者からのコメント

「震災後初めてカラオケを楽しみました。本当に楽しかった。」

「仲間と笑って話が出来ました。このことが一番大切だと感じました。」

「仮設住宅では隣に音が聞こえるので神経をつかって生活しています。」

そんなストレスが溜まる毎日ですが、今日は大声で歌えてストレス発散になりました。」

### ● 第二回 大田仮設住宅（134戸）

住所：岩手県大船渡市末崎町大田142-10

期間：2012年2月4日（土）～ 2月17日（金）



#### ● 現地の様子

敷地内及び周辺地域でのコミュニケーションをとれる場が無かった為に、カラオケカーの設置を多くの方々が待ち望まれており、たくさんの喜びの声が上がりました。お子様を持つ保護者の方からも仮設のある敷地内での利用なので安心出来ると感謝の声を頂きました。

歌を歌い、笑いあえることは、仮設で暮らす方々が一人きりでは無いことの実感、孤独感の軽減にも繋がっていると感じました。

#### ● 利用者からのコメント

「誘い合って、譲り合って、住民全てでカラオケを楽しみたいです。」

「仮設住宅に入って9ヶ月目になるが、カラオケで歌えて本当に楽しかった。」

「久しぶりに会えた仲間とカラオケカーの中で話が出来た。このことを大切に思っている。」

### ●第三回 杉下仮設住宅（94戸）

住所：岩手県大船渡市三陸町越喜来字杉下56-4

期間：2012年2月18日（土）～ 3月2日（金）



#### ●現地の様子

杉下仮設のある三陸町越喜来（おきらい）地区は、津波によりスーパーやカラオケ、飲食店も無くなってしまった壊滅的な被害を受けた地域で、家族や仲間達と集まる場所がありませんでした。

仮設住宅で暮らすほとんどの方は隣人と会話することがありませんでしたが、今回の支援をきっかけに知り合いになれたという方が大勢いらっしゃいました。

### ●利用者からのコメント

「震災以来、大きな声を出して歌った！本当に気分が良かったです！」

「歌は下手だが雰囲気大好きで参加、利用してみました。とても楽しかったです。」

「一日も早い復興を祈りながら、夢と希望を胸に皆で協力し頑張っていくつもりです！」

### ●第四回 滝の里工業団地仮設住宅（86戸）

住所：岩手県陸前高田市竹駒町字滝の里105-5

期間：2012年3月5日（月）～ 3月18日（日）



#### ●現地の様子

こちらの仮設住宅に入居している方々の平均年齢は高く、更に一人暮らしの高齢者がたくさんいらっしゃいました。入居者の皆様がお互いに接する機会も少なく、最初はカラオケカーを興味本位で見られていた方も、暖かい室内とカラオケを歌う楽しさを皆で共有したいと、同じ仮設で暮らす隣人を誘い合い、ご利用されていました。

### ●利用者からのコメント

「ここで近所に住んでいた知人に会えた。元気で良かった…」

「震災前にあった集会所が無くなり困っていましたが、これからはここが新しい集会所です！」

「家の中から出ることはほとんどありませんでしたが、カラオケカーを利用する為に外に出る楽しみが生まれました。」

●第五回 モビリアキャンプサイト仮設住宅（108戸）

住所：岩手県陸前高田市小友町字瀬沢155-78

期間：2012年3月19日（月）～ 4月1日（日）



●現地の様子

長屋形式の仮設住宅ではなく、1戸建ての独立した仮設住宅が立ち並ぶ場所の為、お互いの住居に足を運ぶことが無く、近隣の交流を必要とする場合には弊害となっていました。

今回のカラオケカーの設置をきっかけに近隣の方が集まれる新しいコミュニケーションの場が増えたと喜びの声を頂きました。

●利用者からのコメント

「懐かしい歌を同世代で歌い、楽しかった記憶が蘇った後、幸せな気持ちになり涙がこぼれました。」

「ここを利用して新しい友人が増えました。もっと利用したいです！」

「皆で集まる場所を提供していただき本当に感謝しています。」

●第六回 高田高校第2グラウンド仮設住宅（148戸）

住所：岩手県陸前高田市高田町字長砂52-1

期間：2012年4月2日（土）～ 4月15日（金）



●現地の様子

この仮設住宅は、津波が押し寄せた市街地を避けた丘の上に位置しています。その為、道路等の整備が遅れており、車での移動が困難なことから歩いて移動される年配の方も多く暮らしています。

利用された方からは、敷地内に近隣の方と集まれる場所があることは震災以降考えられなかった、辛いことを忘れることが出来る時間と場所が出来た、と多くの方々から喜びの声を頂きました。

●利用者からのコメント

「ストレス解消に最高でした。希望を持って一步步前進していく気持ちになりました。」

「時間がある度に利用しています。」

「大好きな歌を大きな声で歌えば、ちよちよした気分も晴れます！」

「歌って、大声で笑いました。命がある今に感謝しています。」



## 医療団活動の記録

2012

1月21日(土)	岩手県大船渡市立根町	宮田仮設住宅
1月22日(日)	〃	宮田仮設住宅
1月23日(月)	岩手県大船渡市盛町	木町仮設住宅
1月25日(水)	〃	東町仮設住宅
1月26日(木)	岩手県大船渡市猪川町	ろくろ石仮設住宅
1月27日(金)	岩手県大船渡市末崎町	大田仮設住宅 (大船渡市営球場)
	岩手県大船渡市三陸町	黒土田仮設住宅 (三陸町綾里中学校)
2月15日(水)	岩手県大船渡市末崎町	大田仮設住宅
2月16日(木)	〃	小中井仮設住宅
	〃	大田仮設住宅
2月17日(金)	岩手県大船渡市三陸町	杉下仮設住宅
2月18日(土)	岩手県大船渡市赤崎町	大立仮設住宅
2月19日(日)	岩手県大船渡市三陸町	黒土田仮設住宅
2月20日(月)	岩手県大船渡市赤崎町	後の入仮設住宅
	〃	清水仮設住宅
2月21日(火)	岩手県大船渡市猪川町	下権現堂仮設住宅
3月14日(水)	岩手県陸前高田市横田町	横田小学校
3月15日(木)	岩手県陸前高田市竹駒町	滝の里工業団地
	岩手県陸前高田市米崎町	米崎中学校
3月16日(金)	岩手県陸前高田市小友町	モビリアキャンプサイト
	岩手県陸前高田市広田町	広田小学校
3月17日(土)	岩手県大船渡市猪川町	前田仮設住宅
	岩手県陸前高田市高田町	高田高校第2グラウンド
5月12日(土)	岩手県大船渡市末崎町	大田仮設住宅
6月10日(日)	岩手県大船渡市三陸町	黒土田仮設住宅

※巡回診療医療は、今後も継続して行って参ります。

# 国連本部 (NY) 特設デリケーション会場に於いてのスピーチ

## “Opening Remarks”



国連の友 代表 / 国連環境計画 (UNEP) 特別顧問  
ノエル J. ブラウン

Remarks by Dr. Noel J. Brown  
President & C.E.O of Friends of the United Nations

本日、『震災後マネジメントと東日本大震災国連NGOレポート』のカンファレンスを開催出来ますことを嬉しく思います。

日本は国連にとって大変重要な国であり、日本にとっても国連は重要な存在です。

現在も多くの人々が自宅に戻れず、経済の損失も莫大であり、多くの人々の心が傷ついたままであることは非常に悲しい事実です。

しかしながら、一方で希望の光も見えています。

震災後、日本人は立ち上がりました。

世界も日本に多くの支援を行っております。

多くの国々が出来る限りの寄付をし、世界中の子供達がお悔やみのメッセージを送りました。

国連はいつも日本と共に歩んでいます。



カンファレンスには大きな災害によって被災を受けた国、その政府代表団（チリ共和国・ハイチ共和国・インドネシア共和国・トルコ共和国 他多数）が参加されました。

## “Post Disaster Management Ceremony”



第66回国連総会議長最高顧問 / 前国連事務次長  
アンワルル K. チャウドリー

Remarks by Anwarul K. Chowdhury  
a former Under-Secretary General of the United Nations

国連の友Asia-Pacificの理事として、本日ご出席頂いた方々に御礼申し上げます。

本日のカンファレンスの題名通り、ご出席頂いた方々は震災後の管理の大切さとその難しさをご存じと思います。

国連の友Asia-Pacificとカラオケ業界の大手である第一興商様との共同プログラム“Friends of the United Nations Sing for Smile Program”は、PTSD（心的外傷後ストレス障害）を抱える被災者を支援し、仮設住宅の方々の孤立を防止するのが目的です。この様なプログラムはおそらく初めての試みであり、カラオケが人々の悲しみや孤独感を軽減させ、結果、ストレスの軽減に繋がるとの発想は、これまでに無い新しい考え方といえます。カラオケを使用して被災者を支援して頂いた第一興商様と林社長様に特に感謝の意を表したいと思います。

更に、ここで、避難所での女性の状況に関し一つだけ提示させて頂きたい件は、被災地の避難場でのリーダーの殆どが男性だったという点です。

この為、多くの避難場では女性のプライバシー、例えば、物干し、トイレや生理用品等に関し十分な配慮が出来なかったのも事実です。

私は、第一興商様に被災者への引き続きの支援を期待するのに留まらず、今回のカラオケカーの様なアイデアを駆使して、被災地での女性の様々な問題にも目を向けて頂ければ嬉しく思います。

国連人道問題調整事務所（OCHA）のジョン ギングNY代表のスピーチでもありました通り、民間との共同活動が今後、国連にとっても東日本大震災の被災地での活動にとっても更に重要となります。

本日は、ご参加頂き有難うございました。

この場で大切な情報を皆様と共有出来ましたことを誇りに思います。

## “Working with government, international agencies, civil society and the private sector to support survivors of the Great East Japan Earthquake”



国連人道問題調整事務所 NY代表  
ジョン ギング

Remarks by Mr. John Ging, Director, Coordination and Response Division,  
United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs (OCHA)

はじめに、私はこのカンファレンスの主催者である国連の友Asia-Pacificに、日本で昨年発生した地震と津波による災害を考える機会を与えて下さったことに感謝致します。ブラウン代表の冒頭挨拶も有難うございました。この場に参加出来たことは大変名誉であり、更に人道支援と緊急援助の代表コーディネータである国連事務次長並びにOCHAの代表者でもある Baroness Valerie Amos に代わりご挨拶を行いたいと思います。

地震とその後の津波による大災害は悲劇的であり、国連の友Asia-Pacificが制作されたビデオの様に多くの家族と地域に苦しみを与えました。我々は将来の災害に対し、万全な準備を行う為に、この災害から多くのことを学ぶことが大切です。

震災発生の数日後、国連やその他の国際機関がどのような支援が出来るかを協議する為、私は日本に向かいました。日本政府の要請によりOCHAはチームを編成して専用スタッフを東京に向かわせ、国際支援チームの調整と情報管理等を世界の国々へ報告しました。

被害総額は人類史上最も高額であり、犠牲者数も膨大でした。2011年に於いて世界の自然災害からの被害者の60%は日本の震災と津波によるものでした。

震災とその後の対応は、日本の災害に対する準備の高さを示し、多くの人々が救出されたのも事実です。この準備のお陰で、地震のみによる死傷者の数は、全体死傷者の10%以下と非常に少数でした。これを見ても分かる通り、準備が全ての鍵であり、日本が長年培ってきた対策を賞賛致します。

しかし、あの様な巨大な津波のインパクトを軽減させることの出来る国は世界中何処にもありません。震災の大きさは圧倒的でした。全てのレベル（政府、NGOs、民間企業、個人）に於いて、其々が其々の責任を全うしました。



震災発生の数日後には膨大な数のボランティアが其々の目標を持ち構成されました。この場合、助けを必要としている人々に可能な限り効果的な支援を行う為、効果的なコミュニケーションネットワークがすぐに構築されたことが初動では重要となります。

国際的にも惜しみない支援が日本に行われました。日本からの正式な国際支援申請が行われる以前に7億ドル以上の支援金が日本に送られました。日本がこれまでに行ってきた国際的な支援に対し、世界中の多くの人々が日本に対し援助を行いたいという強い気持ちがそれです。海外にいる多くの人々が、日本から受けた恩を今こそ返す時だとメッセージしました。一般の方々からの支援に対する動員も大切な要素です。日本国内の一般の方々からの支援は、15億ドル以上になりました。

震災発生1ヶ月後、OCHAは国際社会と政府に対しどのような支援が最も効果的なのかといった情報を提供する大切な役割を果たしました。我々は、過去の経験からこのような大きな災害時には必要の無い支援も含まれることを知っています。その為、OCHAは日本政府の協力の下、必要な支援を国際社会に伝えて参りました。

全ての人々に必要とされる支援を行うことは、政府だけではなく、一般からの支援の必要性も今後益々高まっていくことは必然です。最後に、このカンファレンスを開催出来たことを光栄に思います。

## “What KARAOKE can contribute to people for mental health treatment, and it can be a useful system for health maintenance”



株式会社第一興商 代表取締役社長

林 三郎

Remarks by Saburo Hayashi  
President of Daiichikoshu Co., Ltd.,

(株)第一興商、代表取締役 林三郎でございます。先ずはこうした機会を与えて頂きましたノエル J.ブラウン代表に御礼を申し上げます。またご来臨の皆様にお会い出来ましたのは何よりも光栄なことと存じます。

私共は震災後一貫して「歌や音楽を通じた被災者支援」を行っております。1973年の設立以降、カラオケ機器・カラオケソフトの販売、賃貸及び通信カラオケの音源、映像コンテンツの提供並びに専用情報端末によるコンテンツサービスの提供等、音楽に関連するリーディングカンパニーとして業容を拡大して参りました。カラオケ文化は1960年代、日本に始まり、またたく間に世界に浸透し、1979年にはオックスフォード英語辞典にて「KARAOKE：英語発音はカラオーキ」と掲載される程に至りました。

歌は、楽しいだけではなく、時として大きな力となることがあります。歌によって人と繋がることで笑顔になれる、そして前に進むことが出来る。これは、歴史が証明しているだけではなく、誰もが日々実感していることではないでしょうか。また、当初は娯楽の一つであった「カラオケ機器」は、高齢化社会におけるカラオケの効能が明確になり、心療医療などに使用されるようになり、社会的にもその役割が期待されております。

今年1月より国連の友 巡回診療医療活動 “Friends of the United Nations Sing for Smile Program” は、まさにカラオケの社会的意義を顕著に表わす活動であり、長いスパンで支援しなければならない「心のケア」の模範であると考えております。「心のケア」と一言で申し上げても、地域の文化、性別、年齢によってそのニーズは異なり、大切なのは被災地のニーズを把握し長い時間をかけて支援することの重要性だと認識しております。

カラオケをご利用頂いた現在も仮設住宅にお住まいの皆様からは「震災後初めて大きな声を出せた」「離れ離れになった友人や親族と会えた」「仮設住民と仲良くなれるきっかけになった」等の多くの声を寄せて頂きました。

私共は国連の友医療団と、この活動を少なくとも2年は続けて参る所存です。

また、健康維持とリハビリ効果を促進させる、音楽・体操・映像プログラムを搭載した音楽療法システムの開発を行っておりますが、本日、こうして各国政府代表団の皆様、国連上級職員の皆様、並びに国連機関の各代表者にお目にかかる機会を得て、カラオケを活用した診療医療活動に役立つ研究・調査を更に推進し、世界の人々が健全で平和な暮らしを構築出来る社会に、歌や音楽を通じて貢献出来る様に努める責務があることを再認識致しました。

本日は有難うございました。





## チャウドリー理事 / 前国連事務次長と (株)第一興商 林社長による対談

2012年5月16日（NY現地時間）国連本部に於いて、世界で初の試みとなったカラオケカーを帯同した巡回診療医療活動“Friends of the United Nations Sing for Smile Program”の報告会にて、アンワルル K.チャウドリー理事（以下、チャウドリー前国連事務次長）と、(株)第一興商 代表取締役社長 林 三郎 様（以下、林社長）による対談が行われました。

### チャウドリー前国連事務次長：

まずは、国連の友Asia-Pacificの被災者支援活動“Friends of the United Nations Sing for Smile Program”に多大なるご協力を頂き感謝申し上げます。無料での巡回心療及び長期に渡る被災地への心のケア（PTSD防止）プログラムが実現可能となりましたのも第一興商様のご支援のお陰



と認識しております。現地の活動報告を聞き、まずは今も仮設住宅にお住まいの皆様ニーズに応えるメンタルヘルス活動に深い意義を感じました。

またカラオケカーやセラピードッグを帯同する活動は世界でも例がなく、誰もがその活動の様子を創造できる「イマジネイティブ・アイデア(Imaginative Idea)」だと感心しました。これは被災地人道支援のNEW WAVEとして世界で紹介すべきです。



### 林 社長：

私共も、被災に遭われた皆様に少しでも企業として貢献出来ますことを光栄に感じております。

チャウドリー理事は、人道支援の中で、とりわけ長年に渡り女性の権利、社会進出の問題を国際社会に投げかけ、国連決議1325号の安全保障理事会決議にもご提案者の一人としてご尽力されています。

ご存知のように日本は高齢化社会となる中、女性がリーダーシップをもって人と人とを繋ぐコミュニケーションの中心となってきています。

また高齢者だけではなく、仕事を持ち社会に参画し新しいことにチャレンジをすることを恐れない女性が増えております。しかしその反面、ストレスを抱える女性が大変増えているのも事実です。「カラオケ」は、こうした社会で活躍する女性のストレス発散に役立っています。

#### チャウドリー前国連事務次長：

全く同感です。ひと昔前は、女性の仕事は家事という地域が専らでしたが、職業の幅も広がり、プロフェッショナルな人生を歩む女性が増えている中で、ストレスを抱える女性も確実に増えているでしょうね。一見、女性問題と「カラオケ」とは結びつかないのですが、生活補助やコミュニケーションのツールとして大きな役割りを果たすことが出来ると認識を新たにしました。

#### 林 社長：

「カラオケ」は、仕事を持つ女性だけではなく、子育て世代の女性が家族や地域の皆様とのコミュニケーションの場としても、互いに子育ての相談をしたり、ストレス解消の場として楽しみながら活用して頂いております。また近年、高齢者の健康増進、介護予防の研究に努めております。その教室でも女性のインストラクターがキーパーソンとなっています。

#### チャウドリー前国連事務次長：

「カラオケ」と健康増進、介護予防という着眼点は非常に興味深いですね。

#### 林 社長：

「カラオケ」は、世界中の誰もがどこでも気軽に楽しめて、健康（維持・増進）に効果があるということが特色だといえます。日本では、高齢者が食べ物をうまく飲み込めず、喉に詰まらせて亡くなる例が増えています。また、それに加えて多くの高齢者が飲み込む機能の衰えにより、間違っただけで食べ物や飲み物が雑菌とともに器官に流れ込んで肺炎となって亡くなっているそうです。これは唾液の捻出力が弱まっていることが原因だといわれています。つまり、昔は大家族で家族間の会話がが多く、唾液が絶えず捻出されていましたが今は核家族化が進み、高齢者が会話する時間がめっきり減少したことが一因といわれています。そこで「カラオケ」で歌を歌うことが会話時間の減少を補い、唾液の捻出力を高める助けになるのです。

#### チャウドリー前国連事務次長：

それは新しい発見です。核家族化の問題は単に心の問題だと思っていましたが、肉体的問題にも影響を与え「カラオケ」がその健康問題にも効果的であるとは驚きました。

#### 林 社長：

辛いトレーニングなら長くは続けられませんが、楽しいことなら続けられる…それには「カラオケ」が最適だと思うのです。



#### チャウドリー前国連事務次長：

今のお話を伺い、カラオケは単なる娯楽だけではないということが理解出来ました。

素晴らしい効用・活用方法を、もっと世界に紹介すべきだと思うのですが、カラオケは日本語以外の言語でもプログラムされているのですか？

#### 林 社長：

英語、中国語、韓国語、マレーシア語、タイ語等があります。

#### チャウドリー前国連事務次長：

これからは、フランス語、アラビア語も必要ですね。

なぜならアフリカ大陸の多くの国々はフランス語を公用語としている国が多く、またご存知のように多くのアフリカの国々は紛争・貧困等、国際・国内問題を抱えています。こうした国々で「カラオケ」が活用され、コミュニケーションが潤滑に進めばコミュニケーションツールとして一役買えるかも知れません。

一方、イスラムの人々は日本人と同じようにシャイな人が多く、「カラオケ」を上手く歌えることは自分に自信を持つことに結びつくのではないのでしょうか。

それにイスラムの人々は世界の国々の中でも、音楽やダンスを好む民族といえます。

#### 林 社長：

日本でも40年程前（「カラオケ」が誕生する以前）は、なかなか人前でマイクを持って歌うということも出来なかったのですが、今では1億総アーティストという自発的主張が大切な時代となりました。

「カラオケ」は、特に女性の方々に牽引して頂けるツールといえます。

また「カラオケ」は国際交流にも有効であると考えています。

先日韓国を訪れましたが、他の国の方々とは短期間で一番仲良くなれたのは、相手の国の歌を相手の国の言葉で歌った時でした。

#### チャウドリー前国連事務次長：

そのお話は具体的でイメージしやすい事例です。

相手を知るには相手の文化や風習を知ることが不可欠であり、最良の方法です。歌にはそうした文化・風習が沢山詰まっています。

ところで、今後はどのような地域にカラオケを拡めていかれる予定ですか？

林 社長：

現在はアジアを中心に行っていますが、今回NYでもカラオケを楽しめる場所を数箇所視察しました。多くの人達が、人種に関係なくカラオケを楽しんでいる姿を見て、英語はもちろん、先程理事からのお話もありましたように、アラビア語や他の言語でのカラオケの普及の可能性も考えていきたいと思いました。



しかし、事業を展開するには曲の選択から啓発方法まで、総合的なプロデューサーの存在が必要です。

チャウドリー前国連事務次長：

その国、地域の文化・慣習等に精通しているエキスパートの協力は確かに必要です。15年程前から比べるとカラオケ機器は大変洗練されています。文化と技術の融合は日本が得意とする分野で、アジア地域でもミャンマーをはじめ、まだまだ市場が拡大出来るのではないのでしょうか。

カラオケは単なるエンタテインメントではなく、人間形成の為のツールであると、今日のお話を伺いながら強く感じました。

例えば、この歌を歌えば自分に自信が持てる！といったパッケージや、自己啓発に役立つパッケージ等、「心」の問題に直結するアプローチ方法もあるのではないのでしょうか。

林 社長：

それは良いアイデアですね。

カラオケが心身ともに人々のコミュニケーションのお役に立てるように今後も研究・開発をして参ります。

今日は貴重なお話を頂き有難うございました。

チャウドリー前国連事務次長：

こちらこそ、新たな発見をさせて頂きました。

これからも歌や音楽を通じて世界の人々の心を繋いでくださることを国連を代表して、心より願っております。



(UN PLAZAにて)